

これは「私の研究」というより、「私たちの研究」といわなければならぬ。昭和三十七年度から二年にわたって、同志社女子大学の研究助成金をうけてつづけている共同研究なのである。協力していただいているのは、神学ご専攻の杉瀬祐助教授である。私たちのこの研究に動機を与えたものは二つあった。一つは、同志社がキリスト教主義教育の学園であるということでありもう一つは、同志社女子大学が創立以来、リベラル・アーツ・カレッジとして形成されてきたということであった。第一の点について、私たちの問題は、同志社はキリスト教をもつて教育―すなわち人間形成―の基本としているが、はたしてキリスト教の真理が教育の真理とただし関係において結合し、キリスト教の信仰が人間形成の生命的、人格的活動にまで一貫して働く教育理論を生み出してきたであろうか。この点を本質的にまた同志社教育の歴史に即して考究し、明らかにしていきたいということであった。第二の点については、単独のリベラル・アーツ・カレッジとして発足し

た同志社女子大学が、リベラル・アーツを教育の目的、内容として、どのようなユニークな研究、教授体制を確立すべきか、そのためにまずリベラル・アーツそのものの本質的理解と欧米におけるリベラル・アーツ



「リベラル・アーツと
キリスト教主義教育」
酒井 康

ツの教育史の探究がなされなければならないということであった。殊に新島襄先生が同志社創立にあたって、目標とされた大学の教育が、カレッジを中心とする教養教育であったこと、また先生が学ばれたアームスト・カレッジをはじめ、現在も約七〇〇

を数える比較的小規模なリベラル・アーツ・カレッジはアメリカの高等教育施設の特徴であり、急変する社会の要請に従って、さまざまな挑戦や試練をうけながらもユニークな地位を保持して、その将来を期待されていることを思う時に、現代の日本における高等教育が一般教育の源流ともいいうべかりベラル・アーツの教育をもういちど根本的に探究し直してみる必要を痛感するのである。さらに十九世紀後半以後は超宗派乃至は世俗化の傾向を辿ってきたとはいえずリベラル・アーツ・カレッジの多くがキリスト教を基盤として設立され、そこに人間教育の支柱を確立してきたことを知る時に同志社のごときキリスト教主義の学園における教育の理念を探究するために、福音の真理とリベラル・アーツとの関わりが根本的に問われなければならないと思うのである。テーマの広大に比して、学力の狭小がもどかしく、険難路に喘ぐこと屢々であるが、先輩の諸先生のご指導を期待しつつ、研究をつづげていきたいと願っている。

(女子大教授・教育原理)